

Monthly Report

2013/10月号

(株)フレンドリージャパン

—目次—

- 1面 現地旅行会社からの声
現地旅行社キーマンインタビュー
- 2-3面 一般情報/トレンド情報
- 4面 壹友からの声/中国マーケット情報

現地旅行社からの声

早く変えよう 中国の連休制度

日本の皆さんにはピンとこないかもしれませんが、中国の祝日・連休の決め方は非常に複雑で分かりにくくなっています。

中国の伝統的な祝日の「中秋節」と「国慶節」を連休とする為、その前後の土日を出勤日に振り替えて、「中秋節休暇」は3連休に、また、「国慶節休暇」は8連休になりました。

※つまり、今年の9月19日(木)からの中国の通常出勤体制は、下記のようにになりました。

9/19(木)～9/21(土):「中秋節休暇」(3日) 9/22(日)～9/27(金):出勤 9/28(土):休 9/29(日)～9/30(月):出勤
10/1(火)～10/7(月):「国慶節休暇」(7日) 10/8(火)～10/12(土):出勤 10/13(日):休 10/14(月)～:通常に戻る

問題は国民への休暇福祉である連休を確保しようとするが為に、社会の通常運行に大変な混乱をかけていることです。特に旅行を中心とした消費意欲を育成する目的とは大きく逸脱している現状です。

特に、日本を含めて海外の会社との関わりある旅行会社としては、業務上にも支障があり、大変困惑しています。本来休むべき週末が振替出勤になり、本来仕事をする平日が休みになっている中、会社員などは本当にその時になって休暇の取れる状況になるかどうか不安になり、旅行の計画もなかなか立てられません。

旅行会社も祝日期間中の商品設定や航空座席の確保について困惑しています。せっかく早期割のようなお得な制度があっても、間際まで予定が決まらないため、出発間近に座席予約をせざるおえない現状なのです。

旅行会社のみならず、一般国民も早く今のような休暇の決め方を変更して欲しいという声が高まっています。祝日休暇は大歓迎ですが、わざわざ土日を振り替えてまで連休を作ることはやめて欲しいものです!!

好評連載【今を知る！ 現地旅行社 キーマンに聞く。第6弾】

南光(上海)国際旅行社有限公司 日韓部 経理 沈逸 (SHEN YI)さん

Q:10月から「旅游法」が施行されますが、訪日ツアー代金にはどのぐらいの影響がありますか？

A:弊社はコースによって、1000元～2000元程度の値上げをしています。

Q:ツアー価格の値上がりにより、お客様は反応は？

A:納得せざるを得ないですね。お客様も数社からの見積を取ってを比較しているので、全旅行社が値上げしているので仕方ないと納得しています。

Q:国慶節の定番コース(ゴールドルート)の販売価格はいくらですか？

A:約6000-7000元ですね。

Q:ショッピング施設への立ち寄りができなくなりますが、ランドオペレーターにはどのように徹底していますか？

A:それは当然地上手配契約に反映しています。違反したら罰則です。基本的に中国の旅行社はランド手配代金を後払いしていますので、それに違反したら、ランド手配代金も支払わないことにしますので、徹底できると思います。

Q:韓国ツアーはどのような感じですか？

A:2000元以上の値上げです。他国に比べて訪日ツアーの上げ幅は少ないと思います。

Q:最近お客様の需要は、どのような変化がありますか。

A:個人型フリープランを選ぶ人がますます多くなっていますね。団体旅行の価格面での魅力がなくなっていますので、自由に行動できる個人型旅行が若者層を中心に増加している傾向です。

Q:今後の傾向は、どのようになると思いますか。

A:特に問題が発生しなければ、訪日ツアーの伸び率は目立って上がると思います。十分準備していきたいと思っています。



◆今年の中秋節は、海上の海外観光が人気

上海出入国検査所が3日明らかにしたところによると、今年の中秋節の間に、約1万人の国内外の旅客が豪華クルーザーに乗って、海上で月見を楽しむという。

9月19日～21日の中秋節の連休で、上海港を出入りする豪華クルーザーは4隻で、そのうち国際クルーザーが2隻。出入国検査所によると、出入国の旅客と船員数は14,500人以上で、そのうち、旅客が約1万人(船員が4,500人)と予測している。

中秋節もある9月は、上海港の2カ所の国際クルーザー埠頭で、出入国する豪華クルーザーの数は44隻、国際客船が17隻で、出入国の旅客、船員数が15万人以上になり、そのうち、旅客数が約10.6万人(船員数が約4.4万人)とみられている。

(出先: 9/4日付け 新聞晨报 訳: 壹友)

◆国慶節期間 フリープランが大幅増

Ctripの予約状況によると、今年国慶節期間の海外の長距離旅行マーケットが非常に人気になっています。航空券とホテルのみのフリープランの予約の割合が大幅に増えています。国慶節期間でのTOP10はタイ・台湾・韓国・日本・マレーシア・シンガポール・フランス・ドイツ・イギリス・インドネシアです。都市ランクでは、台北・ソウル・シンガポール・バンコク・プーケット島・東京・コタキナバル・ランカウイ・チェンマイ・クアラルンプールとなっています。その中では今年大幅に増やした国(地区)は、台湾・韓国・タイで、特に台湾は、ホテル予約数が大幅に増えました。

(出先: 9/10日付け 中国出国旅遊資訊網 訳: 壹友)

◆韓国・イギリスが、中国人観光客への査証発給要件を緩和する政策

世界中の旅遊マーケットは中国観光客誘致が盛んです。多数の国家は中国観光客を誘致するために、ビザ申請緩和を政策として実施しています。

今月から、北京・上海戸籍の中国人は韓国三年マルチビザを申請でき、個人向けフリープランツアーも人気です。韓国旅遊局によると、上海駐在領事館公式サイトに「このビザ申請の予約は11月下旬まで混雑しています」と案内がされていますが、ツアー企画旅行社を通じてビザ申請があとを絶ちません。

アメリカも、さらに中国観光客向けのビザ手続きを簡単にするにより、他の旅遊目的地にも一定の良い影響を示しました。電子ビザの方面では、トルコの他に、カタール・シンガポール・オーストラリア・カンボジア・スリランカも、中国観光客に電子ビザを出し、観光客は領事館に行って面接はする必要はなく、領事館の公式サイトに関連する手続きのみでビザ手続きを完了できます。

(出先: 9/17日付け 中国出国旅遊資訊網 訳: 壹友)

◆ 出入国に持込禁止 & 制限の物品

外高橋外聯発コンサルティング情報によると、中国に出入国の際、《中華人民共和国 出入国持込禁止の物品表》と《中華人民共和国 出入国持込制限の物品表》における特別な物品に関する質問に対し、税関総署はこういうように解釈した。

1. ギャンブル用カードやチップは《中華人民共和国 出入国持込禁止の物品表》にリストアップされた「中国政府、経済、文化、道徳に有害な印刷品、フィルム、写真、映画、録音テープ、レーザーディスク、コンピュータメモリ及びその他の物品」の条項に「その他の物品」に属する。

2. 微生物、生物製品、血液及びその製品、人類遺伝資源、公安管轄刃物は《中華人民共和国 出入国持込制限の物品表》にリストアップされた「出入国における税関持込制限のその他の物品」に属する。

(出先: 9/25日付け 時代報 訳: 壹友)

◆ 夏休みの上海虹橋空港の出入国旅客数が50万人を超え、同期比5%増

今年の夏休みで、上海虹橋空港の出入国旅客数が50万人の大台を突破し、前年同期比5.1%増え、1日当たりの出入国旅客数が8,200人を超え、通常より13.6%多かった。

虹橋出入国検査所のスタッフによると、今年の夏休みは暑くて、台風、雷の天気の影響もあったが、虹橋空港の旅客数は依然として多く、特に夏休み中期 7月中下旬に出入国の旅客数が持続的に多かったとのこと。

全夏休み期間の出入国旅客数は三つの特徴がある。

1. 伝統的なビジネス旅客、出稼ぎ労働者を除き、中国大陸の住民が家族でタイ、香港、韓国などの国と地域に行くことが多かった。
2. 香港、マカオや海外の大学が始まり、出国する留学生が多かった。
3. 韓国への観光客数が多い。今年上半期、韓国ビザの緩和によって、韓国はタイ、香港を超えて、中国観光客の最も好きな観光地になった。

(出先: 9/4日付け 新華網 訳: 壹友)

トレンド情報

お祝いのショートメールが少なくなり、今年の流行は月見写真を見せる

今年の中秋節は例年と違って、お祝いのショートメールが少なくなったが、微信の「友人圏」の人気は変わらずだ。特に、夜に入り、月見の写真が午後7時13分頃にアップロードされ、各地の月見風景も良く見られて、祝日の雰囲気盛り上がった。

上海に住んでいる王さんは地元へ帰らなくても、祝日の雰囲気を深く感じられたようだ。

大学を卒業して30年も経ち、今回の中秋節は微信で「友情30年」の友人圏を作り、携帯で祝日のお祝いを表したという。

(出先: 9/20日付け 新浪網 訳: 壹友)



10月1日に施行される「中華人民共和国・旅遊法」からもたらす最大の結果としては、ツアー料金の上昇です。

法律が施行開始されるのは、ちょうど10月1日～7日の中国大型連休「国慶節」にあたり、ツアー商品造成に著しく変化をもたらしました。今まであったショッピングの内容や追加料金になるオプションツアーの販売はすべて行程表から削除され、ツアーガイドがツアー実施中に販売できないこととなります。

中国の国内法ではありますが、中国国内で募集した団体ツアーや手配旅行は、海外に行っても、その法律の定めに従わなければなりません。懸念する課題は、いくつかあります。

まず、今まであった海外の「土産店」やローカルツアーガイドの生存問題です。今まで中国人観光客が海外で使った莫大な消費力に依存する「土産店」、特に中国人だけを相手にする土産店は、新しい生存方法を考えなければなりません。

また、添乗員やツアーガイドの収入体制も変わっていくでしょう。今までの観光ガイドは「日当なし」の場合が多く、極端なケースでは旅行会社にお客様の人数に応じて、ひとりあたり1,000～2,000円程度の「お客様紹介料(人頭税)」を払う場合もありました。つまり、観光ガイドは旅行会社から、お客様を買って、法外なショッピングコミッション収入を得ていたということです。

そのような行為は、今後厳重に罰せられることとなります。旅行会社としては、観光ガイドに対して、しかるべき日当を支払うことが義務付けられました。観光ガイドがまっとうな日当をもらうようになる以上、土産店からのコミッションに頼らず、良質なサービスを提供するようになることを期待しています。

総じて言えば、旅遊法の施行によって、旅行に参加するお客様の権利が守られ、旅行中のトラブルが減少される見込みです。

旅行会社の事業運営に対する規制が厳しくなりますが、よりクリアな競争環境になっていくことが期待されています。今後の中国旅行業界では、【価格訴求】から【顧客満足】への経営方針の転換がきちんと出来るかどうかポイントだと思います。

タイムリー 中国マーケット情報

◆団体

9-10月は中秋節・国慶節の連休があり、中国旅行社の収穫期と言えます。団体ツアーが集中的に出発していますので観光ガイドや添乗員が不足しています。また、定番観光地に行くと、どこへ行っても観光客ばかりで込み合っています。ツアー用のレストランは食卓争奪戦までも現れています。

旅行価格が安くない時期ですが、季節的には大変良いシーズンでもあり、富裕層のお客様が多い状況です。

◆FIT

「旅遊法」の施行により、団体と個人旅行の旅行費用の格差が小さくなり、個人旅行の傾向が著しく強くなりました。インターネットからホテルや入場券だけを予約したり、国によっては査証申請もインターネットを利用して取得します。日本だけ特殊な査証申請手続きがあり旅行社に依頼することを義務付けられています。富裕層の間では、手間を省くため、マルチ査証の取得を希望する傾向にあります。一方で査証審査基準が厳しいため、旅行会社のスタッフが困惑している状況です。一刻も早い査証審査基準の緩和が熱望されています。

◆商品造成

訪日ツアーの定番コース(ゴールデンルート)や、東京+α、北海道+αが圧倒的に人気集中されています。5-6年前のツアーと全く同じ内容で販売している旅行社はまだまだ少なくありません。中国の旅行会社からは、日本側旅行社(ランドオペレーター)からの観光素材に関する情報提供が少ないので、直接、自治体や観光事業者に対していろいろな情報提供をして欲しいとの意見が多く寄せられています。

株式会社フレンドリージャパン



〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町14-6 黒松ビル501

TEL 03-6416-5505 FAX 03-6416-5515

E-mail madoguchi@friendlyjp.com HP <http://www.friendlyjp.com/>